

# ★ まちづくり ★ ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>



121号  
2010年6月22日

ときわ台の景観を守る会  
ときわ台まちづくり委員会  
代表 鈴木博之 近藤洋子  
事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

## ○ 藤和マンション行政訴訟

### 第8回口頭弁論

7月14日(水) 11時 522号法廷

今回は原告適格についての反論に対して、こちら側の意見を述べる番。16日11時15分は被告日本建築センターの建て得に関わる判決。果たして最高裁調査官だったという今回の裁判長はどんな判断をするのでしょうか。

## ○ 放置自転車の問題

6月の板橋区議会一般質問で、Y議員が常盤台の不法駐輪問題を取り上げてくれた。暫定のはずの小学校脇の駐輪場について、「無料」という現在の表示を、「暫定」に変えるよう申し入れを再度迫ってくれたのだが、区の反応はほとんど無いに等しかった。実際に現地を見てからでないといけない、という言い訳だったが、見に行くのは忙しくてできないそうだ。なんとも誠実さに欠けている。

一・二丁目町会から、何年も前に陳情が出されている。都市建設委員会で採択され、区議会でも賛成多数で可決させたのだから、しっかり追跡調査して実現させてもらいたい。

今後も面談を申し込んで、早期の解決を図ってもらおうよう努力を続けたい。

## ○ クルドサックが空中散歩で 取り上げられました

6月3日(木) 12チャンネルで、空から見た東上線というテーマで、池袋から成増あたりまで空中撮影されたテレビ番組の中で、常盤台のクルドサックが取り上げられました。上空からは鍵穴のように見えるとか。ほんの少しの時間だったのが残念でした。

## ○ バザーは来年に延期

参議院選が7月にありますが、選挙の日の恒例となっている「景観を守る会」のバザーは、諸般の事情により今回は見送ります。

来年の選挙の時はまた行う予定ですので、もし品物をご用意くださっているようでしたら、来年まで保存して置いてくださるようお願いいたします。

## ○ 電柱の貼り付け広告

先日、和光市の人達が街歩きをしに来て、びっくりしていたことが二つありました。

一つは道にゴミが落ちていないこと(これは昔からの常盤台の美風で、朝早くから家々ではご自分の家の前の道路を掃いています)

一つは電柱に金融や不動産の貼り付け看板が無いことでした。

板橋区の不法広告撤去員の制度のことを教えると、和光市でも取り入れたいと意欲的でした。落書きを消す活動をしている人たちなので、関心が強いのでしょうか。

練馬区向山では、電柱広告もありません。東電との交渉で、住宅地の電柱に広告をつけないことになっているそうです。あの落ち着いた雰囲気はなるほどと思われそうです。

ちなみにTさんは、広告を撤去すると、ビニール紐だけ取っておき、一輪挿しなどを編んで人にプレゼントしているそうです。

## ○ 電柱地中化にも許認可?

電線の無いまちづくり云々というNPOのHP。趣旨は大賛成だが、電線のない街並み形成に係る資格制度を設けるといふ。大道芸人も許認可、漢字も資格検定・・・金儲けの手段とならなければ良いが。

## 私の故郷・常盤台（4）

石井幹子（照明デザイナー）

小学校五年の時、私は常盤台から豊島区へ引越しましたが、中学から大学まで私は何度も常盤台に住む友人の所へ訪れています。そして、最後に訪れたのは、大学生の時だったと思いますが、その頃までの常盤台には、目立った変化はありませんでした。

そして、昨年の暮れ数十年ぶりに訪れた常盤台には、暗い気持になりました。まず、駅前が醜くなったことです。ロータリーの形とヒマラヤ杉だけがかるうじて残っていました。広がった公園に、建物が建ち並んで狭くなっているのにも驚かされました。

大谷石の石積と植木の垣根もほとんどなくなっていました。そんな中で、私が育った家は奇跡的にほぼ昔の姿で残っていました。出征する父を皆で見送った家紋の入った門扉も昔のままでした。残念ながら内に入って庭を見ることは出来ませんが、手入れの行き届いた木々を外から見ることが出来ました。

時代は変わり、家族の構成や住まい方も大きく変化したこの半世紀、東京の住宅地はどうあるべきなのかと考えさせられます。

日本人は今まであまりにも無造作に家や街を壊し新しく建て替えてきました。しかし、ここへ来て、少し考え方が変わってきたようにも思えます。古い良いものは大事にしよう、または復元して元へ戻そうという機運も生まれて来ています。

私の故郷・常盤台もよい方向へと向かってほしいと願っています。

完

## 常盤台の格差 つづき

格差の問題から脱線しますが、常盤台が堂々たるお屋敷街となることは、そもそも東武鉄道の計画だったでしょうか。

分譲当時の地割りを見ると、随分細かくなっています。土地柄を考えて、中流以上のサラリーマン階級を目標に計画されたそうです。ですから購入しやすいように、月賦制度も設けられていました。

しかし、実際は、先日の写真展での地図（学生会 昭和二十一年調査作成）で判るように、何区画もまとめて購入した人が多く、東武もまたそれを望んでいたようです。

その結果、七〇〇坪や五〇〇坪の敷地に池や築山を配した邸宅が散在し、一〇〇〜一五〇坪ぐらいが普通という家々が街並みを形成、お屋敷街となったのです。今も当時のまま残る邸宅は、垣根越しに見える庭木や凝った門構えなど、私たちの街の大事な景観を形作っているのです。

五十年を超えた建物は指定文化財の資格がありますが、この街には十軒以上も文化財があるのです。当時の材料や大工の技術など、今では復元できない貴重なものが多いと言われます。他の所にはもっと立派な建築物があると思うでしょうが、これだけの街並みはあと二十五年大事にすれば一世紀を超え、価値は増すばかりでしょう。ただ、実際住んでいる方には、日本家屋は住みにくいことと察せられ、保存をお願いするのがとても遠慮されるのが実情です。

H・S

## 常盤台公園のはなづくり

芝生の雑草取りは、早めに皆で取り掛かったのが功を奏してほぼ完了。しかし、敵は怠けることを知らないゲリラ部隊ですから、五、六日も放つとけば元の木阿弥になってしまいます。

小さな三つ葉のカタバミもお馴染みの敵で、根っこごと掘り取らないと直ぐ繁茂します。掘るのには細い筒型のピラーが便利です。普通は牛蒡のような根ですが、今年のカタバミには大根のような白い根がくっついていました。二股の大根状のものもあり、面白いので写真に収めました。

四日に区から苗をもらい、チューリップと交代してサルビア類を植えました。

チューリップは掘り上げて乾燥し、十一月まで保存します。植えっぱなしだと、ナメクジや団子虫の餌になってしまいます。

今年買った球根は、良いのを選んでもう一度植え、新しい球根を補充します。二年以上のもはバイラス病にかかるので、捨てるしありません。花卉にも筋が入ります。チューリップは結構お金がかかるものです。

定例会 七月十日（土）六時

「ギヤラリー服部」にて